

おみがわこども園等、 取り戻さないわけの 説明責任は



ねもと たざえもん
根本 太左衛門 議員

Q おみがわこども園等を市民の下に取り戻すとは、実際に土地や建物を取り戻すとの意味でなく、市民が中心となった議論が進められる開かれた行政運営を取り戻すことであれば、市民への説明責任は。

A 当時、施設のあり方を判断するのに必要な市政の情報が市民に広く周知されていないのではないかと感じたことから、市民が中心となって議論が進められる行政運営を目指していきたいと考えたもので、今後は情報公開を進め、市民からの意見を聞き、市政への理解と信頼を一層深められるよう努めていきたいと考えています。

Q 産婦人科の診療所は旧香取保健所跡地に本当に開設できるのか。開設予定者は物価等の高騰で設計までも変更とのことだが、市長は。

A 開設予定者である医療法人社団みずたに会においては、想定していた事業費が昨今の建築費高騰等により大幅に上回っているため、設計の見直しを行っているところです。そのため、開設場所については、これまで

でどり旧香取保健所跡地へ開設することとして進めています。今後も、法人とともに開業に向けて努力していきたいと思えます。

選挙公約チラシには何を書いても許されるのか

Q 小見川高校看護科設置に関しては、地域における関連施設である看護学校等関係者との間で協議し、体制を整えた上で進めていくとのことだが、進捗状況はどうなっているのか。

A 令和6年度から小見川高校に医療コースが設置されることから、その状況を確認しているところです。

Q 国道356号は、整備促進期成同盟における要望により、本年1月に事業化すべき路線として認定された。地元説明会も行われ、今後、進められていくとのことであるが、地元選出県議会議員と連携をとり、バイパスの早期開通に向け取り組みべきではないか。



国道356号バイパスの早期開通が待たれる

A 一般国道356号香取小見川バイパス事業については、令和5年8月に事業の進め方に関する説明会が開催され、現地測量および地質調査を実施後、予備設計に着手すると伺っております。今後は、地元選出の県議会議員とともに、早期開通に向け働きかけてまいりたいと考えております。

市が行うべき 道路維持事業は

Q 道路維持事業に関する各地区からの要望はどのようなものがあるか。

A 道路用地の除草、道路側溝等の土砂撤去及び道路の補修工事に関するものが多い状況です。

Q 要望に対する達成度は。

A 1000件程度の地区要望のうち、優先度が高く緊急性があるものから着手し、完了している件数は10%程度であります。一部でも対応している件数を含めると20%程度となります。

Q 要望数の推移は。

A 各年度で多少の増減はありますが、毎年200件程度の新規要望があり、道路関係の累計としては、1000件程度の横ばいで推移しております。

Q 道路や水路の清掃について、各地区に協力をお願いしているが、どの程度の

作業を期待しているか。

A 道路や側溝の維持管理について、除草や路肩の土砂撤去、側溝清掃等の軽微な作業をお願いしております。

意見 要望に対して達成度が低く、市民の不満は募る一方であり、維持事業費の拡充を検討すると同時に、より道路環境を良くするためには比較的容易な作業にあつては、各地区で協力しやすくなるような取り組みが必要と思う。

学校給食費無償化の効果は

Q 無償化にあたり、食材の質の低下や、おかずが減るなどの影響はないか。

A 食材の購入費用となる賄い材料費などの給食を提供するために必要な経費は、一部無償化実施前と同等の予算を確保しているため、無償化による給食の質の低下はありません。

Q 全国オーガニック給食協議会と学校給食のオーガニック化について市はどう考えるか。

A 全国オーガニック給食協議会は、いすみ市が代表となり、オーガニック食材を学校給食に導入する活動を推進するため、令和5年6月に設立されました。学校給食のオーガニック化については、食育の推進とともに生産者の収入安定や地域経済の活性化などのメリットがあると言われております。市としては、オーガニック食材の価格や供給量の確保など、現時点においては、導入に向けて多くの課題があることから、今後、県内自治体の実施例などを参考に時間をかけて研究が必要であると考えております。



新鮮なオーガニック野菜

意見 実際に給食費無償化を受ける立場として、子どもの成長とともに出費は増えているので有効な政策と感じている。市長公約に基づき、早急な小・中全年への無償化実現をすべき。